

# 東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル

## 令和元年度事業報告書



令和2年6月

# 目 次

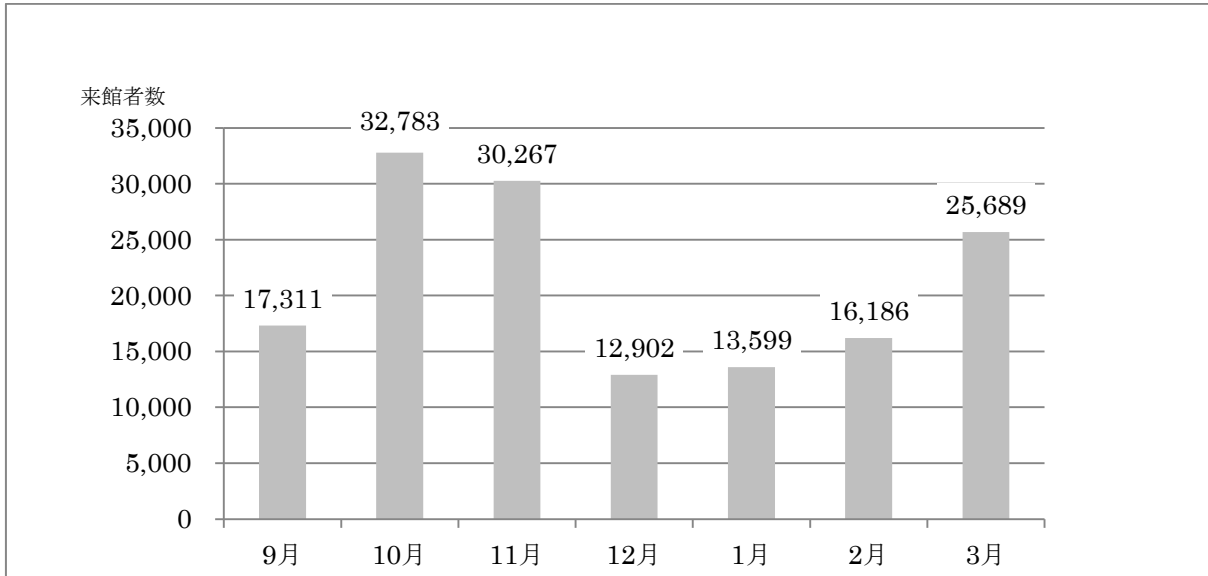
項 目	頁
<b>来館者の状況</b>	
1 来館者数の状況	2
2 区分別団体予約の状況	3
3 都道府県別団体の状況	3
<b>事業報告</b>	
I 展示事業	
1 常設展示及び解説員による分かりやすい解説の実施	4
2 企画展示の実施	7
II 教育・普及事業	
1 利用者層に応じた学習プログラムの作成	8
2 セミナールーム等を活用したイベントの実施	10
3 復興教育関係研修会への参画	12
III 広報宣伝事業	
1 情報発信	13
2 教育旅行の誘致	13
3 その他誘客促進	14
IV 連携事業	
1 海外、大学、関係機関との連携	16
2 県内及び被災4県の震災伝承施設の取組	17
<参考1> 新聞記事等	19
<参考2> 東日本大震災津波伝承館概要	22

# 来館者の状況

## 1 来館者数の状況

月別来館者数

単位：人



単位：人、日

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来館者数(A)	17,311	32,783	30,267	12,902	13,599	16,186	25,689	148,737
開館日数(B)	9	30	30	28	28	29	29	183
1日当たりの平均来館者数(A/B)	1,923	1,092	1,008	460	485	558	885	813

※1) 台風第19号により令和元年10月12日は12時より休館、10月13日は1日休館した。

2) 令和2年3月3日、4日は展示装置保守点検のため臨時休館した。

3) 最多入館者数：3,163人(令和元年9月23日(月・祝))

平日、土日祝日別来館者数

単位：人、日

	平日	土日祝日	計
来館者数(A)	72,998	75,739	148,737
開館日数(B)	123	60	183
1日当たりの平均来館者数(A/B)	593	1,262	813

令和元年9月22日の開館から11月までの1日当たりの平均来館者数は1,000人台で推移した。要因として、秋の行楽シーズンや修学旅行シーズンであったこと、高田松原津波復興祈念公園、道の駅高田松原の複合施設の効果などが考えられる。令和元年12月から令和2年2月までの1日当たりの平均来館者数は400から500人台で推移したが、令和2年3月は東日本大震災津波発災月でもあり、800人台に増加した。

1日当たりの平均来館者数は、平日が593人、土日祝日が1,262人と、土日祝日は概ね平日の2倍となっている。

## 2 区分別団体予約の状況

単位：件、人

区分		予約件数			人数		
		県内	県外	計	県内	県外	計
学 校	小学校	8	1	9	200	41	241
	中学校	6	4	10	242	45	287
	高校	9	7	16	468	219	687
	大学	5	7	12	81	95	176
	計	28	19	47	991	400	1,391
学 校 以 外	観光ツアー	21	41	62	643	1,324	1,967
	取材・報道	31	15	46	93	49	142
	地域の団体	26	4	30	804	115	919
	県(部局、県議会)	23	1	24	281	10	291
	自治体	7	7	14	133	32	165
	国(省庁、議員)	3	11	14	29	128	157
	海外(観光含む。)	0	12	12	0	170	170
	議会	3	6	9	100	32	132
	その他	35	43	78	865	648	1,513
計	149	140	289	2,948	2,508	5,456	
合計		177	159	336	3,939	2,908	6,847

学校では、県内では高校が多く、県外では高校と大学が多かった。

学校以外では、観光ツアー(62件)が最も多く、次いで取材・報道(46件)、地域の団体(30件)であった。

県内では、取材・報道(31件)が最も多く、次いで地域の団体(26件)、県(部局、県議会)であった。県外では、観光ツアー(41件)が最も多く、次いで取材・報道(15件)、海外(観光含む)の団体(12件)であった。

## 3 都道府県別団体予約の状況

### (1) 団体予約件数

単位：件、人

	予約件数	人数		予約件数	人数		予約件数	人数
北海道	2	27	東京都	64	1,150	島根県	1	11
青森県	10	467	神奈川県	6	142	山口県	1	4
岩手県	177	3,907	新潟県	1	5	香川県	1	9
宮城県	25	478	富山県	0	0	福岡県	1	10
秋田県	1	2	静岡県	3	35	熊本県	4	32
山形県	1	27	愛知県	6	30	沖縄県	3	70
福島県	2	7	大阪府	9	157	海外	14	185
茨城県	1	41	兵庫県	1	5			
千葉県	1	40	和歌山県	1	6	合計	336	6,847

都道府県別でみると、岩手県が177件と最も多く、次いで東京都(64件)、宮城県(25件)が多かった。

### (2) 区分別予約件数

単位：件

	観光ツアー		小学校		中学校		高校	
	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数
1	東京都	23	岩手県	8	岩手県	6	岩手県	9
2	岩手県	21	茨城県	1	青森県	2	神奈川県	3
3	青森県	6	-	-	東京都	1	大阪府	2
4	沖縄県	3	-	-	神奈川県	1	青森県	1
5	その他	9	-	-	-	-	東京都	1
計		62	-	9	-	10	-	16

区分別でみると、観光ツアーでは東京都(23件)が最も多く、学校では小中高校とも岩手県が多かった。

## 事業報告

### I 展示事業

#### 1 常設展示及び解説員による分かりやすい解説の実施

展示施設の維持管理を行うとともに、解説員による分かりやすい展示解説等を実施し、常設展示の円滑な運営に努めた。

展示のテーマ

**命を守り、海と大地と共に生きる**  
～二度と東日本大震災津波の悲しみをくり返さないために～

展示構成	展示内容	館内写真
<b>エントランス (24H)</b> 来館者を最初に迎えるインフォメーションゾーン。公園、陸前高田市、三陸沿岸地域、3.11 伝承ロード等の情報を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設案内、避難案内</li> <li>・ 高田松原津波復興祈念公園ガイド</li> <li>・ 陸前高田市市街地ガイド</li> <li>・ 岩手県 三陸ガイド [地図]</li> <li>・ 岩手県 三陸ガイド [検索装置]</li> <li>・ 3.11伝承ロード [地図]</li> <li>・ 全国・世界の類似館紹介 [検索装置]</li> <li>・ メッセージボード [壁面モニター]</li> <li>・ 施設メッセージ [壁面モニター]</li> </ul>	
<b>ガイダンスシアター</b>	命を守り、海と大地と共に生きる <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般向け [40席 映像12分] →現在18席</li> <li>・ 子ども向け [40席 映像10分]</li> </ul>	
<b>ゾーン1：歴史をひもとく</b> 津波災害を歴史的・科学的視点からひもとく、古来、育まれてきた知恵や技術、文化を見つめ直し、自然とともに暮らすということを改めて考える。	1-1 地球の活動と地震・津波 [動画] 1-2 くり返す津波の歴史 1-3 日本の自然災害対策	
<b>ゾーン2：事実を知る</b> 被災した実際の物、被災の現場をとらえた写真、被災者の声、記録などを通して、東日本大震災津波の事実を見つめる。	2-1 東日本大震災津波の概要 2-2 被災物が語る津波の威力 2-3 失われた風景 2-4 被災者が語る津波の脅威 2-5 2011年3月11日 東日本大震災津波発生 [12席 映像6分] →現在8席	
<b>ゾーン3：教訓を学ぶ</b> 逃げる、助ける、支えるなど、東日本大震災津波の時の人々の行動をひもとくことで、命を守るための教訓を共有する。	3-1 命を救うために 災害対策室 [20席 映像8分] →現在8席 3-2 命を守る・支える 3-3 生きるための避難 3-4 未来をつくる	
<b>ゾーン4：復興を共に進める</b> 国内外からいただいている多くのご支援に対する感謝の気持ちとともに、東日本大震災津波を乗り越えて前へと進んでいく被災地の姿を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援への感謝</li> <li>・ みんなで復興を考えるテーブル [地図、モニター]</li> <li>・ 企画展示</li> </ul>	

(1) 展示施設の維持管理

動作確認等の日常点検及び展示装置の保守点検を実施した。(保守点検：令和2年3月3日、4日)

(2) 解説員研修

解説員として従事する非常勤専門職員8名を平成31年4月1日から任用し、解説員としての研修を実施した。

また、中国語対応の解説員として従事する非常勤専門職員2名を令和元年9月1日から任用し、解説員としての研修を実施した。

① 東日本大震災津波に関する講義、実習（10回実施）

平成31年 4月23日（月）	大船渡津波伝承館館長講話 齊藤賢治氏
4月25日（木）	本県の災害対応の体制 岩手県総務部総合防災室 菊地太良氏
令和元年 5月13日（月）	大震災の救援物資輸送における岩手県トラック協会の取組 岩手県トラック協会 専務理事 佐々木隆行氏
5月20日（月）	震災当時の釜石東中学校の生徒避難路を歩く 震災当時、釜石東中職員、元大船渡市立赤崎中学校校長 松村敦子氏
5月23日（木）	東日本大震災の課題と教訓 岩手大学地域防災研究センター 客員教授 越野修三氏
6月10日（月）	東日本大震災津波時の医療活動と課題 岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター長 眞瀬智彦氏
6月12日（水）	いわての復興教育について 岩手県教育委員会事務局 学校調整課 小松山浩樹氏
7月17日（水）	東日本大震災の概要の説明 盛岡地方気象台
9月4日（水）	施設の概要、各展示内容の説明 岩手大学 教授 南正昭氏
9月10日（火） ～11日（水）	避難訓練について、展示内容の説明 東北大学 柴山明寛氏

② 震災遺構、三陸ジオパーク視察、講義（7回実施、11施設視察）

平成31年 4月15日（月）	講義：三陸ジオパークについて 三陸ジオパーク推進センター 長谷川次長
4月24日（水）	気仙沼市：東日本大震災遺構・伝承館、リアス・アーク美術館 唐桑半島ビジターセンター津波体験館
令和元年 5月8日（水）	宮古市：浄土ヶ浜、震災メモリアルパーク中の浜、 震災学習「学ぶ防災」
5月15日（水）	遠野市：3.11 東日本大震災遠野市後方支援資料館
5月20日（月）	釜石市：いのちをつなぐ未来館、根浜海岸
6月19日（水）	田野畑村：語り部&ガイド
7月11日（木）	東松島市、石巻市：東松島市震災復興伝承館 東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館

③ 沿岸各市町村の被災者・避難者支援や復興や伝承の取組を学ぶ研修（14市町村）

令和元年	
5月15日（水）	遠野市
5月31日（金）	陸前高田市
6月3日（月）	住田町
6月4日（火）	大船渡市
6月5日（水）	宮古市
6月6日（木）	大槌町、釜石市
6月13日（木）	野田村、普代村
6月19日（木）	田野畑村
6月26日（水）	洋野町、久慈市
7月3日（水）	岩泉町
7月4日（木）	山田町

④ 接遇、外国人対応研修（4回実施）

令和元年	障がい者対応
7月22日（月）	大船渡保健福祉環境センター 北川明子保健課長
7月23日（火）	外国人観光客対応 県観光課 国際観光担当 斎藤辰也主任主査
7月24日（水）	インバウンド対策ワークショップ ～外国人観光客に対するの対応、コミュニケーションの取り方～ 岩手県政策地域部国際室 和山アマンダマリー主事
7月30日（火）	マナーアップとクレーム対応 コミュニケーションアドバイザー 田原美晴氏

⑤ 震災津波伝承課職員による講義

平成31年	
4月1日（月）	サービス等について
4月2日（火）	公園・展示について
～4日（木）	
4月9日（火）	地震の仕組み
4月10日（水）	防災関係のゲームの実施（HUG:避難所運営ゲーム）
4月11日（木）	ジオパーク、伝承施設について 地震とマグニチュードの違い
4月15日（月）	新学習指導要領について
4月16日（火）	福島第1原子力発電所について、放射線についての基礎知識
令和元年	
8月5日（月）	展示内容の確認
～27日（火）	

(3) 展示解説

予約団体への団体解説及び来館者への当日解説等を実施した。

(4) 展示の一部更新

指定避難場所変更に伴う館内マップの修正、撮影・録音禁止サインの追加等を行った。（令和2年3月2日～3月31日）

## 2 企画展示の実施

震災伝承の取組及び岩手県の復興状況等について広く周知することを目的として、4回の企画展示を実施した。

### 第1回 3.11伝承ロードへの誘いⅠ（パネル展示，ゾーン4，R1/10/5～11/15）

岩手県内の震災伝承施設（第3分類）を写真入りで紹介



### 第2回 3.11伝承ロードへの誘いⅡ（パネル展示，ゾーン4，R1/12/11～R2/1/13）

高田松原津波復興祈念公園（第3分類）の基本理念、完成予想図、園内の震災遺構などを紹介



### 第3回 岩手県大槌町定点観測 大槌高校×神戸大学（パネル展示，ゾーン4，R2/2/17～3/5）

岩手県立大槌高等学校復興研究会の高校生と神戸大学近藤研究室の学生が主体となり、2013年から始めた大槌町の定点観測の写真を紹介



いわて<sup>つなみ</sup>TSUNAMIメモリアル講座  
「高校生による震災伝承活動報告会  
展示の部」（セミナールーム，2/8～16）  
大槌高校×神戸大学の展示を移設

### 第4回 東日本大震災津波から9年 ～自然災害を乗り越える～

（パネル展示，ゾーン4，R2/3/17～5/31 [4/12～5/24は休館のため休止]）

東日本大震災津波による岩手県の被害とその特徴、復興の進捗状況、9年間で特に被害の大きかった平成28年台風第10号災害と令和元年東日本台風（台風第19号）災害の概要を紹介





## II 教育・普及事業

### 1 利用者層に応じた学習プログラムの作成

#### (1) 中高生向け「震災津波伝承ノート」の作成

内 容： 学校団体の学習効果を高めるため、学んだことを書き込むワークブックを作成し、見学のサポートや学校での振り返り授業等で活用することにより、内容の定着を図る。

対 象： 中学生、高校生

作成部数： 5,000 部



#### (2) 来館者一般向け「未来をつくる」ワークブックの作成

内 容： ゾーン3-4「未来をつくる」の概念図を冊子にしたもの。各自で気づいた点等を書き込んでもらい、学びを深め、行動へ移すきっかけとしてもらうことを想定。

対 象： 来館者一般

作成部数： 10,000部



#### (3) いわたの復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」への協力

内 容： 県教育委員会が推進する「いわての復興教育プログラム」における教育的価値【いきる】【かかわる】【そなえる】を踏まえた児童生徒用の副読本（令和2年4月1日発行改定版）で伝承館を取り上げることとなり、原稿作成に協力した。

対 象： 県内の児童・生徒



小学校・低学年用



小学校・高学年用



中学校用



高等学校用

(4) ワークショップの指導

内 容： 避難所運営ゲームHUG（H=避難所 U=運営 G=ゲーム（ハグ））を通じた避難所運営学習の指導を行った。

対 象： 大船渡市立赤崎中学校3年生 26人

実施日： 令和元年11月8日(金)

場 所： セミナールーム

なお、ワークショップに参加した生徒たちが、令和元年12月に赤崎中学校において、実際に避難所運営体験を行った際、当館職員が講師として助言を行った。



【HUGに取り組む赤崎中学校の生徒の皆さん】

(5) 気仙管内の県立学校との意見交換の実施

内 容： 令和元年8月に、気仙管内の県立学校を訪問し、当館の説明を行うとともに、伝承館の利活用について意見交換を行った。

訪問先： 高田高校、住田高校、大船渡高校、大船渡東高校、気仙光陵支援学校

## 2 セミナールーム等を活用したイベントの実施

項目	① イベント名 ② 実施日 ③ イベント概要 ④ 参加者数	⑤ アンケート結果 ⑥ 実施所感	イベントの様子
1	① 大船渡津波伝承館長講演 ② R1/11/2 (土) ③ 津波襲来時の映像や津波前後の写真などをもとにした被災体験談を講話 ④ 40名	⑤ アンケート未実施 ⑥ 開館後、最初のイベントとして実施した。	
2	① 1時間まるっと展示解説 ② R1/11/5 (火) ③ 「津波防災の日」「世界津波の日」に定時解説を実施(通常は団体予約のみの展示解説をフリーで聴ける機会をつくる) ④ 定員20名で3回実施計27名	⑤ 参加者からは好評で、1時間の時間設定も「ちょうどよい」と評価。団体予約以外で展示解説を聴ける機会(定時解説やフリー対応)への要望も多かった。 ⑥ 冬(閑散期)のフリー解説実施等の参考になった。	
3	① 映画「漂流ポスト」上映会 ② R1/12/22 (日) ③ 広田半島に実在する漂流ポストを題材にした短編映画を上映 ④ 定員30名で6回上映計181名	⑤ 参加者の3/4が50歳以上。作品の評価及び上映会が風化防止と震災伝承に効果ありとの評価ともに高かった。 ⑥ 世界各国の映画祭で高い評価を得た作品であり、若年層をターゲットにしたものの、周知・集客に課題。	
4	① 建築ガイドツアー ② R2/1/11 (土) ③ 内藤廣建築設計事務所スタッフをガイドに、公園・施設の設計の考え方や見所を紹介 ④ 定員20名で3回実施計62名	⑤ 50歳以上が過半数を占めたものの幅広い年齢層から関心を集めることができた。「設計者側の思いが伝わった」との感想が多く寄せられた。 ⑥ SNS等でも公園・施設への評価は高く、引き続き需要があると考えられる。	

項目	① イベント名 ② 実施日 ③ イベント概要 ④ 参加者数	⑤ アンケート結果 ⑥ 実施所感	イベントの様子
5	① 「岩手復興ドラマ」上映会 ② R2/1/26 (日) ③ 岩手県が2017年に制作した復興ドラマ2本を上映 ④ 定員40名で2回上映 計86名	⑤ 参加者の8割が50歳以上。先 に上映した「漂流ポスト」に比 べ内容が高齢者にわかりやす く評価が高かった。復興ドラ マを初めて観た人が85%。 ⑥ ドラマに出演した俳優が急遽 来場、紙芝居を上演し、参加者 の満足度向上に寄与した。	
6	① 高校生による震災伝承活 動報告会 ② 展示の部 R2/2/8 (土)～16 (日) 発表の部 2/11 (火・祝) ③ 釜石・大槌で震災伝承活動 に取り組む高校生の活動 を展示・発表 ④ 展示の部 (アンケート回収数) 39件 発表の部 46名	⑤ 展示の部、発表の部とも60歳 以上の割合が多く、中高生は非 常に少なかった。 ⑥ 発表の部は多くのマスコミ(県 外含む)に取り上げられ、パブ リシティ効果が極めて高かった。 一方、ターゲットと想定した中 高生の参加が少なく、イベ ント告知等に工夫が必要と考 えられる。	
7	① 親子であそぼう！防災ゲ ーム ② R2/2/23 (日) ③ 概ね未就学児とその親世 代をターゲットに、遊びな がら防災に関心を持って いただくイベント ④ (アンケート回収数) 27件	⑤ 伝承館を初めて利用した方が 7割以上と、未来への伝承、誘 客促進に効果が認められた。 ⑥ 子どもが小さいことから伝承 館の利用を躊躇している子育て 世代に足を運んでいただ ききっかけとなった。	
8	① 『3月11日を「大切な人 を想う日」に』へ寄せられ た手紙展 ② R2/3/7 (土)～15 (日) ③ 岩手日報社の「3月11日 を『大切な人を想う日』に』 の取組と、この取組に賛同 する署名に添えられた手 紙を紹介する展示 ④ (アンケート回収数) 73件	⑤ 取組に賛同する署名(134通) の居住地を集計した結果、県外 が約半数。また、県内(68通) の市町村別集計では、全てが盛 岡＝宮古以南で、県北地域への PRが今後の課題。 ⑥ 3月11日をはさんだ展示期間 だったことから、多くの来館者 にご覧いただき、大変好評を得 た。	

### 3 復興教育関係研修会への参画

(1) いわたの復興教育・防災教育研修講座

内 容：復興教育推進校に指定された小学校・中学校・高校・特別支援学校の所属職員を対象に、当館の説明を行った。

実施日：令和元年6月11日（火）

場 所：岩手県総合教育センター

(2) 県内小・中学校復興教育研修会

県内6教育事務所主管で開催された復興教育研修会へ参加し、各小・中学校の復興教育担当教員へ当館の説明を行った。

【研修会参加一覧】

開催期日	主管事務所	場 所	参加校
令和元年 5月29日（水）	宮古	宮古地区合同庁舎 大会議室	小学校34校 中学校19校
6月24日（月）	県南	東山地域交流センター（一関市）	小学校62校 中学校28校
7月1日（月）	沿岸南部	三陸公民館（大船渡市）	小学校31校 中学校18校 義務教育学校1校
8月28日（木）	中部	花巻市交流会館	小学校49校 中学校25校

※ 県北、盛岡教育事務所に関しては、令和2年度参加予定



### Ⅲ 広報宣伝事業

#### 1 情報発信

##### (1) ポスター作成・配布

伝承館と道の駅を2枚一組にしたポスターを200組(400枚)作成。

令和元年8月から各地に掲示。

##### 【主な掲示場所】

- 道の駅(岩手県内及び隣県)
- 三陸鉄道各駅及びIGRいわて銀河鉄道主要駅
- 大学(県内)
- 高等学校(気仙地区)
- 中学校(沿岸南部教育事務所管内)
- 震災伝承施設(県内)
- 災害伝承施設(全国)



2枚一組ポスター

##### (2) ホームページによる情報発信

伝承館の専用ホームページを7月26日に開設。

団体予約受付の案内及び団体予約状況を掲載。

当館について、常設展示、利用案内を掲載。

企画・イベント、お知らせを掲載。

震災語り部等の紹介を掲載。



伝承館ホームページ

##### (3) SNSによる情報発信(令和2年6月5日時点)

媒体	投稿数	フォロワー数
Twitter	1,635	1,202
Instagram	175	527
Facebook	160	650

#### 2 教育旅行の誘致

##### (1) 岩手県教育旅行誘致説明会(大阪会場)

内容: 関西方面からの教育旅行の誘致を図るため、中学校・高等学校の教諭及び旅行会社を対象とした「岩手県教育旅行誘致説明会」において、当館を紹介した。

実施日: 令和元年11月15日(金)

場所: 大阪府(アートホテル大阪ベイタワー)

参加校: 大阪・京都地区の中・高4校、旅行会社6社

### 3 その他誘客促進

No.	実施内容	参考写真
1	<p><b>三陸防災復興プロジェクト2019との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロジェクト内各種イベントにおいて伝承館の開催告知チラシを配布</li> <li>○ プロジェクトで沿岸各地に設置された情報ステーションへチラシを配架</li> <li>○ クロージングセレモニー（8/7）会場受付等へポスターを掲示（写真）</li> </ul>	
2	<p><b>都営地下鉄広告</b></p> <p>東京都交通局による復興支援の一環としての、都営地下鉄広告枠の無償提供を活用したものの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 駅貼り広告：B0判 R1/9/6（金）～19（木）日比谷駅等主要10駅</li> <li>○ 中吊り広告：B3W版（写真） R1/9/11（水）～24（火）全線全車両</li> </ul>	
3	<p><b>リーフレットの作成・配布</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本語版 100,000部</li> <li>〃 50,000部*</li> <li>※ 来館者数が順調に推移したため、日本語版を増刷。</li> <li>○ 英語版 9,000部</li> </ul>	
4	<p><b>読売新聞紙面企画「月刊チーム8」との連携</b></p> <p>AKB48 チーム8の各県代表が読売新聞地方欄で月1回コラムを連載する企画提案が採用され、岩手県代表の井上美優さんが実際に伝承館を訪問した様子を全4回にわたって紹介。</p> <p>読売新聞岩手県版地方欄に12月～3月まで4回連載（4回とも、縦5段、横半ページ、カラー刷）</p> <p>当館が課題としている若年層へのアプローチ手法として効果が期待される。</p>	

<p>5</p>	<p><b>いわて TSUNAMI メモリアル in Fukuoka の開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開催日：令和2年1月13日（月・祝）</li> <li>○ 開催場所：みちのく夢プラザ（福岡市天神にある北東北三県合同アンテナショップ）※岩手県福岡事務所との共催</li> <li>○ 開催概要：解説員による伝承館の紹介及び展示解説、短編映画「漂流ポスト」上映（主演が福岡県出身）など</li> <li>○ 参加者、約150名。 福岡事務所の手配によりテレビ・新聞各1社ずつの取材があり、九州北部におけるパブリシティ効果が得られた。（写真は毎日新聞） アンテナショップの集客、震災の風化防止と岩手県への観光誘客に効果あり。</li> </ul>	 <p>東日本大震災の教訓共有を 「みちのく夢プラザ」復興イベント 陸前高田から出張解説 津波伝承館で被災地知って</p>
<p>6</p>	<p><b>コミックいわてQへの紹介記事掲載</b></p> <p>岩手県が毎年発行しているコミックいわての第9号巻頭カラーに、伝承館訪問レポートマンガ（2ページ）を掲載。</p> <p>コミックいわてQ：R2/3/20 発売</p>	
<p>7</p>	<p><b>FDA「黄金の國、いわて。」号への広告掲載</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ FDA 9号機ヘッドレストカバーへの広告掲載（写真）</li> <li>○ FDA 機内誌への広告記事掲載</li> </ul> <p>※ いずれも令和2年3月から6月の期間で実施したものの、コロナ禍で期待した効果は得られず。</p>	



## IV 連携事業

### 1 海外、大学、関係機関との連携

国内外を代表する津波学習拠点を目指し、海外津波博物館関係者の視察や意見交換を実施したほか、防災研究の専門家に視察いただき、伝承館の展示運営の助言をいただくとともに、今後の連携について要請を行った。

#### (1) 文化遺産国際協力コンソーシアムの国際協力調査（インドネシア）への参加

令和2年1月に、文化遺産国際協力コンソーシアムの令和元年度国際協力調査（インドネシア）に当館から職員1名を派遣。2018年に発生した地震・津波により甚大な被害を受けたインドネシア・スラウェシ島パル市の現地調査及び関係機関へのヒアリング等に参加した。

パル市内陸部 液状化地滑り被害



#### (2) インドネシア・アチェ州のフィールドワーク調査への参加

令和2年2月に、東北大学災害科学国際研究所のインドネシア・アチェ州でのフィールド調査に復興局・伝承館から2名参加し、アチェ津波博物館をはじめ、アチェ州、バンダアチェ市及び地元の国立大学シャクアラ大学の表敬訪問の実施やスマトラ沖大地震の震災遺構等の現地調査（ヒアリング）を実施した。



インドネシア・アチェ州・フィールド調査（アチェ津波博物館）

#### 【海外からの主な来館者】

令和元年6月 インドネシア・アチェ津波博物館ハフニダール館長視察（工事中の館内を視察）  
（三陸防災復興プロジェクトシンポジウム出席のため来日）

11月 ロンドン大学（リスク防災研究所）デヴィット・アレキサンダー教授視察

12月 インドネシア・アチェ市観光文化局職員及びアチェ津波博物館ハフニダール館長ら6名来館し、館内の視察と今後の連携方策について意見交換を実施。

令和2年1月 ハワイ太平洋津波博物館マーリーン・スー・ムリー館長来館し、視察と今後の連携方策について意見交換を実施。

1月 アメリカコロラド大学（自然災害センター所長）キャサリン・ティアニー名誉教授視察

## 2 県内及び被災4県の震災伝承施設の取組

### (1) 震災伝承ネットワーク協議会

#### ① 「震災伝承施設」への登録

国と被災4県（青森県を含む）及び仙台市で構成する震災伝承ネットワーク協議会において公募・登録を実施している「震災伝承施設」に、東日本大震災津波伝承館が令和元年9月1日に第3分類として登録になった。



#### <参考> 岩手県内の所在市町村別登録件数

(令和2年1月30日時点)

所在市町村	施設数 (件数)	分類の内訳			所在市町村	施設数 (件数)	分類の内訳		
		第1分類	第2分類	第3分類			第1分類	第2分類	第3分類
洋野町	1	1			山田町	4	4		
久慈市	10	8	1	1	大槌町	1			1
野田村	1		1		釜石市	9	5	2	2
普代村	5	2	3		大船渡市	19	12	6	1
田野畑村	4	1		3	陸前高田市	12	10		2
岩泉町	3	2	1		遠野市	1			1
宮古市	10	4	1	5	合計	80	49	15	16

#### ※ 施設の分類について

「震災伝承施設」の登録に当たっては、各施設を①震災伝承、②訪問しやすさ、③理解しやすさの点から、次のとおり3分類している。

第1分類：①だけを満たす施設、第2分類：①及び②を満たす施設、第3分類：①②③全てを満たす施設

#### ② 標章（ピクトグラム）を使用した案内標識の設置

震災伝承ネットワーク協議会では、震災伝承施設への案内を充実する取組として、看板、パンフレットに標章（ピクトグラム）を使用することを推進しており、国、県の道路管理者においては、陸前高田市内の12か所に、道の駅高田松原、高田松原津波復興祈念公園及び東日本大震災津波伝承館を併記した統一ピクト案内標識を各機関と連携して設置した。



また、上記の案内標識に加え、来館者の利便性を図るため、伝承館においても、誘導案内標識を3か所設置した。

住田町世田米字小股地内	住田町世田米字川向地内	陸前高田市矢作町字越戸地内	拡大写真

(2) 一般財団法人3.11伝承ロード推進機構

東日本大震災等の災害の経験や記憶を貴重な教訓として語り継ぎ情報発信することにより、多発する激甚災害に対する防災力の向上と被災地の活性化を図り、もって活力に満ちた地域社会の発展に寄与することを目的として、一般財団法人3.11伝承ロード推進機構が令和元年8月1日に設立された。

伝承館においては、3.11伝承ロードのパンフレットをエントランスに配架するとともに、推進機構の研修会で当館を来館した際に解説対応した。



3.11伝承ロードパンフレット

来館日	研修者数
令和元年11月15日	15名
11月21日	34名
11月28日	35名

■推進機構における事業内容

- 1) 震災伝承施設等に関する情報発信、広報に関する事業
- 2) 被災地の復旧・復興に関する情報発信・広報に関する事業
- 3) 防災力向上のための教材・プログラム開発と提供に関する事業
- 4) 震災伝承施設等とツーリズムとの提携に関する事業
- 5) 防災・減災のための調査・研究に関する事業

■推進機構役員

(令和元年8月1日設立時点)

代表理事	今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所長
理事	涌井 史郎	東京都市大学特別教授
〃	片岡 俊一	弘前大学教授
〃	南 正昭	岩手大学教授
〃	小沢 喜仁	福島大学教授
〃	徳山 日出男	政策研究大学院大学客員教授
〃	紺野 純一	(一社)東北観光推進機構専務理事
〃	吉田 圭吾	(一社)日本旅行業協会東北支部長
〃	新井田 浩	青森県県土整備部長
〃	大槻 英毅	岩手県復興局長
〃	後藤 康宏	宮城県震災復興・企画部長
〃	佐竹 浩	福島県企画調整部長
〃	福田 洋之	仙台市まちづくり政策局長
監事	高田 佳幸	日本政策投資銀行東北支店長
〃	鈴木 淳	河北新報社防災・教育室長

(3) オープンディスカッション「災害とミュージアム」への参加

震災の経験と教訓を伝える施設の担当者が集うオープンディスカッション「災害とミュージアム 何を残し、伝えるのか」に参加し、話題提供を行った。

日時：令和元年12月26日(木) 13:30～16:30

場所：せんだい3.11メモリアル交流館(宮城県仙台市)

主催：ライフミュージアムネットワーク実行委員会(事務局：福島県立博物館内)

参加人数：概ね30人

<参考1> 新聞記事等

1 東日本大震災津波伝承館開館

○令和元年9月23日 岩手日報

令和元年9月23日(1面)

# 刻む つなぐ あの日



東日本大震災津波伝承館に展示された被災車両。写真は、津波で壊滅した車。津波で壊滅した車。津波で壊滅した車。

津波伝承館は、被災車両の展示だけでなく、被災者の体験談や、津波の歴史を伝える展示も用意されている。また、津波の被害を受けた地域の様子も紹介されている。

## 陸前高田 津波伝承館オープン 国営施設も利用可能に

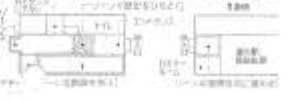
陸前高田市の津波伝承館が23日、正式にオープンした。被災車両の展示だけでなく、被災者の体験談や、津波の歴史を伝える展示も用意されている。また、津波の被害を受けた地域の様子も紹介されている。国営施設も利用可能に。



津波伝承館は、被災車両の展示だけでなく、被災者の体験談や、津波の歴史を伝える展示も用意されている。また、津波の被害を受けた地域の様子も紹介されている。国営施設も利用可能に。

## 記憶と祈り 後世へ

令和元年9月23日(21面・特集左)





2 インドネシア アチェ博物館来館の新聞記事

○ 令和元年12月8日(日) 東海新報

# 防災学習への関わり方学ぶ

## 津波伝承館を視察

インドネシアの  
博物館関係者 教訓伝承への連携も確認

陸前高田



館内を見学するアチェ津波博物館の関係者ら

インドネシアのバンダ・アチエ市にあるアチェ津波博物館の関係者らが7日、陸前高田市の東日本大震災津波伝承館を視察した。バンダ・アチエ市では本年度から、学校、地域住民が防災教育について学ぶプロジェクトが始まることから、防災教育施設の見学も果たしている関係を訪れたもの。同博物館関係者らは伝承館関係者から防災学習への関わり方を学ぶとともに、互いの施設の情報も共有しながら連携して震災の教訓・記憶を継承していくことを確認した。

平成16年に発生したスマトラ沖大地震でインド洋大津波によって、インドネシアをはじめとするインド洋沿岸諸国に甚大な被害を受けた。中でも、スマトラ島北部にあるバンダ・アチエ市では地震と津波によって登録人口20万人のうち6万人以上が犠牲となり、2万戸近い家屋が全壊した。アチェ津波博物館は、この災害と教訓を正しく伝え、再び津波に見舞われた際に被害を軽減することを目標として2009年に開館。避難用の高台に建てられた施設は4階建てで、館内の回廊を回りながら津波の被害を追体験できる造りとなっているほか、津波にのみ込まれるまじのジオラマや被災から復興までの状況を示す資料が多数展示されている。同市の観光の目

玉ともなっており、1日平均約2,000人が訪れているという。

一方、東日本大震災津波伝承館は、震災の教訓継承、防災から復興までの状況と支援への感謝発信を目的として高田松原津波復興記念公園内に再整備したもので、今年8月に開館。11月末までの来館者は8万人余り。市内外の小中学生らも訪れ、震災について学んでいる。

今回の視察は、JICA（日本国際協力機構）の草の根協働協力事業（地域活性化特別枠）において「バンダ・アチエ市における地域住民参加型津波防災活動の導入プロジェクト」が採択されたことを受けてのもので、釜石市など被災地での研修も計画されている。

この日はアチェ津波博物館のハフィダル館長（43）と、同館を運営するアチエ州の観光文化局職員合わせて6人が来館。釜石市の雄物折りのパーク、い

のちをつなぐ米美術館を視察後、陸前高田市に足を運んだ。

東日本大震災津波伝承館の熊谷正則副館長が案内役を務め、東日本大震災の概要について説明。震災当日の映像や被災した気仙大橋の一部、田野郷村の消防団車両といった展示物を紹介しながら、津波の恐ろしさを訴えた。

アチェ津波博物館は開館から10年が経過したが、住民への伝承や資料のデジタル化などといった課題を抱えているという。ハフィダル館長は「東日本大震災津波伝承館は、震災後の動きが紹介されているので分かりやすく、学び合いの場にもなっていて素晴らしい施設。この視察の経験や、われわれの事業にも生かしたい。伝承館とアチエの博物館を未来につないでければ」と話していた。

視察後、同館関係者による意見交換の場も設けられ、「お互いの国の震災のことを語り合う機会が

あってもいいのでは」「これを機に、さらに交流を深めていければ」といった声も双方から上がっていた。

熊谷副館長は「災害への備えの共有や学術的交流など、海外の津波のミュージアムと連携していくきっかけになれば」と話していた。

ハワイ「太平洋津波博物館」の館長にご来館いただきました。

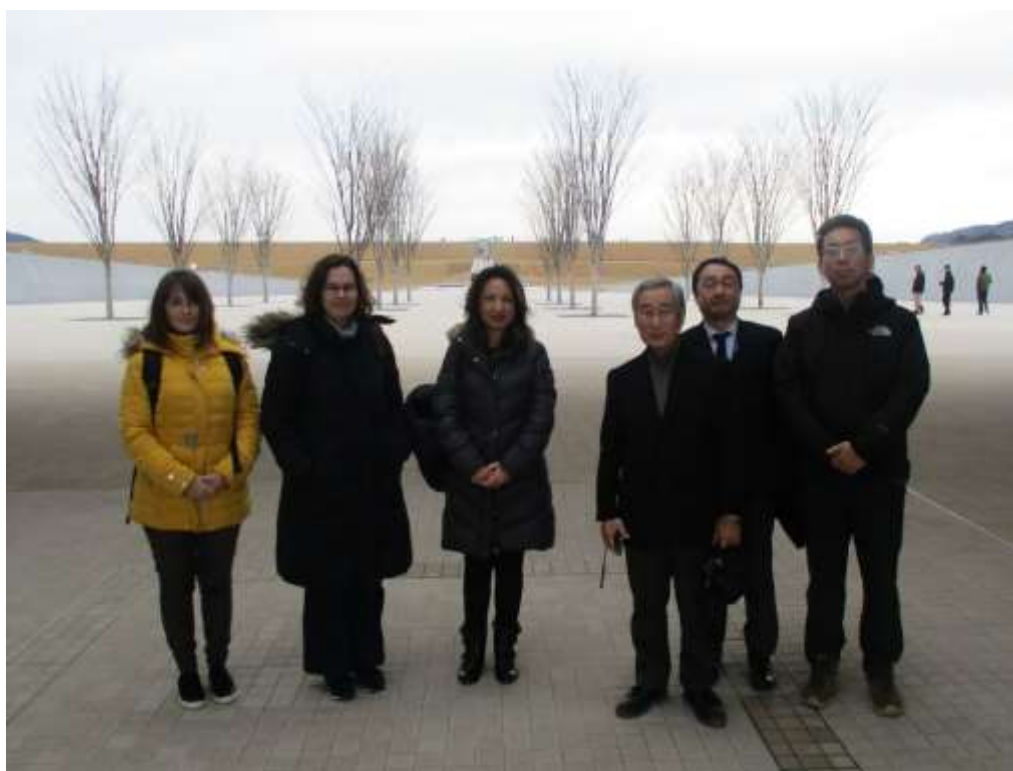
2020年1月13日

1月12日（日）、アメリカ合衆国ハワイ州ヒロにある太平洋津波博物館のマーリン・スー・ムリー館長にご来館いただきました。

太平洋津波博物館は、ヒロに甚大な被害をもたらした1946年のアリユーション津波、1960年のチリ津波による災害と教訓の伝承や防災教育等を目的として1998年に開館したものです。

館内を熱心に視察された同館長からは「東日本大震災津波伝承館と太平洋津波博物館が今後も連携していければ。」とのお話もいただきました。

東日本大震災津波伝承館は、今後も海外津波博物館とも連携し、東日本大震災津波の事実と教訓の伝承に取り組んでいきます。



【左から3番目がマーリン・スー・ムリー館長】

## <参考2> 東日本大震災津波伝承館概要

### 1 いわて県民計画（2019～2028）の位置付け

「復興推進プラン」の4本の柱「未来のための伝承・発信」のもと、事実・教訓の伝承へ取り組んでいく。

【第1期アクションプラン—復興推進プラン（2019年度～2022年度）】

#### IV 未来のための伝承・発信（抜すい）

##### 1 事実・教訓の伝承

未曾有の大規模災害の事実や被災された方のこれまでの経験を踏まえた教訓を確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

##### 取組項目 22 教訓を伝承する仕組みづくりを推進します

###### ① 東日本大震災津波伝承館の整備・運営

災害の歴史から学び、記憶や経験を語り継ぎ、将来に生かすため、高田松原津波復興祈念公園内に東日本大震災津波伝承館を整備し、展示及び教育・普及の事業を実施します。

また、大学、類似施設、被災地をはじめとする県内各地域等と連携し、防災文化の効果的な醸成と継承を図ります。

### 2 東日本大震災津波伝承館の設置目的（東日本大震災津波伝承館条例）

- (1) 東日本大震災津波の教訓の伝承（第1条）
- (2) 東日本大震災津波の発災から復興に至るまでの状況の国内外への発信（第1条）
- (3) 復興支援に対する感謝の発信（条例前文）

### 3 ミッション・ステートメント（施設の基本理念 平成30年1月9日決定）

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。

しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。

この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。

東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

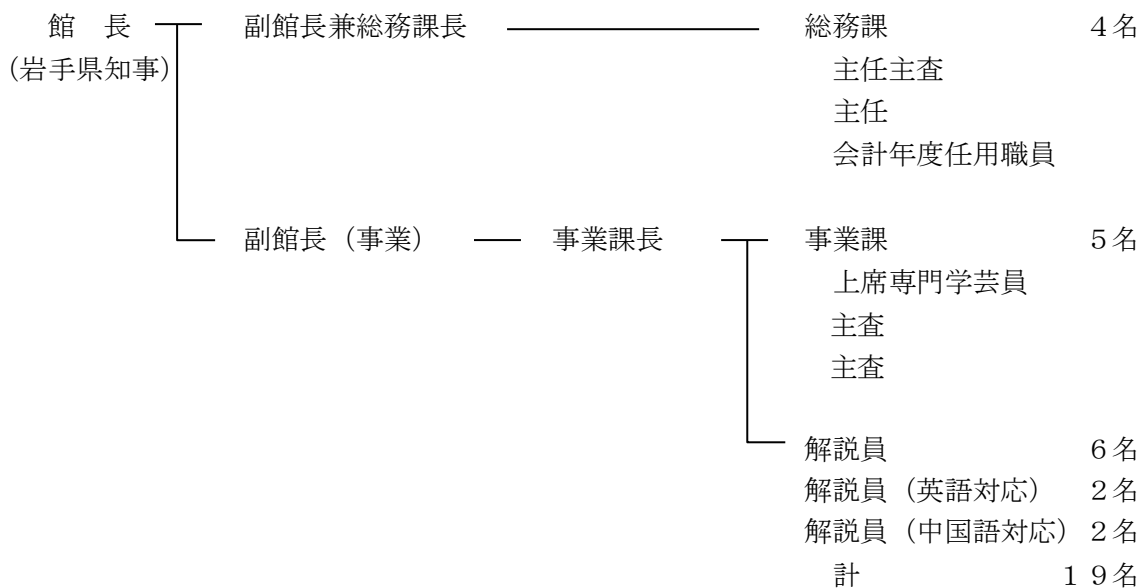
そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

※ ミッションステートメント：来館者に向けて、施設の基本理念を表明することにより、展示及び事業運営の指針を明確に示し、訴求力を高めようとするもの。

### 4 施設の概要

(1) 名称	東日本大震災津波伝承館
(2) 愛称	いわて TSUNAMI メモリアル
(3) 設置場所	陸前高田市気仙町字土手影 180 番地（高田松原津波復興祈念公園内）
(4) 規模・構造	鉄筋コンクリート造2階建 延床面積（2階含む）7,079 m <sup>2</sup> のうち展示面積 1,155 m <sup>2</sup>
(5) 開館年月日	令和元年9月22日（日）
(6) 開館時間	9時から17時まで（最終入館時刻 16時30分）
(7) 休館日	12月29日から翌年1月3日まで 施設メンテナンスのため必要となる日（概ね年4日程度）
(8) 入館料	無料

## 5 組織体制



令和2年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	達増 拓也(知事)	【解説員】	
【総務担当】		解説員	戸羽 純子
副館長兼総務課長	熊谷 正則	〃	金野 聡子
主任主査	熊谷 和典	〃	千田 房代
主任	及川 源太郎	〃	美野 生子
会計年度任用職員	山本 摩耶	〃	吉田 彰
【事業担当】		〃	人首 ますよ
副館長	立花 起一	解説員(英語対応)	キャセルマン ザカリ・ポール
事業課長	里舘 真介	〃 ( 〃 )	熊谷 葉月
上席専門学芸員	齋藤 里香	解説員(中国語対応)	下斗米 霞
主査	佐々木 済通	〃 ( 〃 )	海山 めい
主査	小笠原 伸也	計	19名



令和2年6月発行

東日本大震災津波伝承館（愛称：いわて<sup>つなみ</sup>TSUNAMIメモリアル）

所在地：岩手県陸前高田市気仙町字土手影 180 番地  
（高田松原津波復興祈念公園内）

電話：0192-47-4455

FAX：0192-47-4466

URL：<https://iwate-tsunami-memorial.jp>